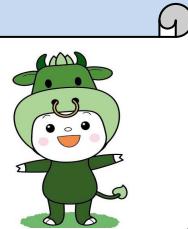


心不全



松阪市マスコットキャラクター
「ちやちやも」

<病気について>

心臓は、全身に血液を送るポンプの役割を果たす大切な臓器です。全身を駆けめぐって炭酸ガスを含んだ血液（静脈血）を肺に送る右心房・右心室（右心系）と、肺で炭酸ガスが酸素に交換された血液（動脈血）を全身に送る左心房・左心室（左心系）とで成り立っています。

心不全とは、心臓のポンプ機能が低下し、体の各組織が必要とする量の血液を供給できない状態をいいます。

<症状>

心不全は、左右いずれの機能が低下するかで分類されます。

左心不全は血液を全身に送り出す力が弱くなるので、左心系の直前の臓器である肺がうっ血を起こし、息切れや呼吸困難などの症状が現れます。

右心不全は全身からの血液を肺に送る力が弱くなるので、下肢のむくみや肝臓が腫れて大きくなる肝腫大などの症状が現れます。

両心不全は左心系・右心系とも機能が低下するものをいい、心臓全体の機能が低下した状態をいいます。

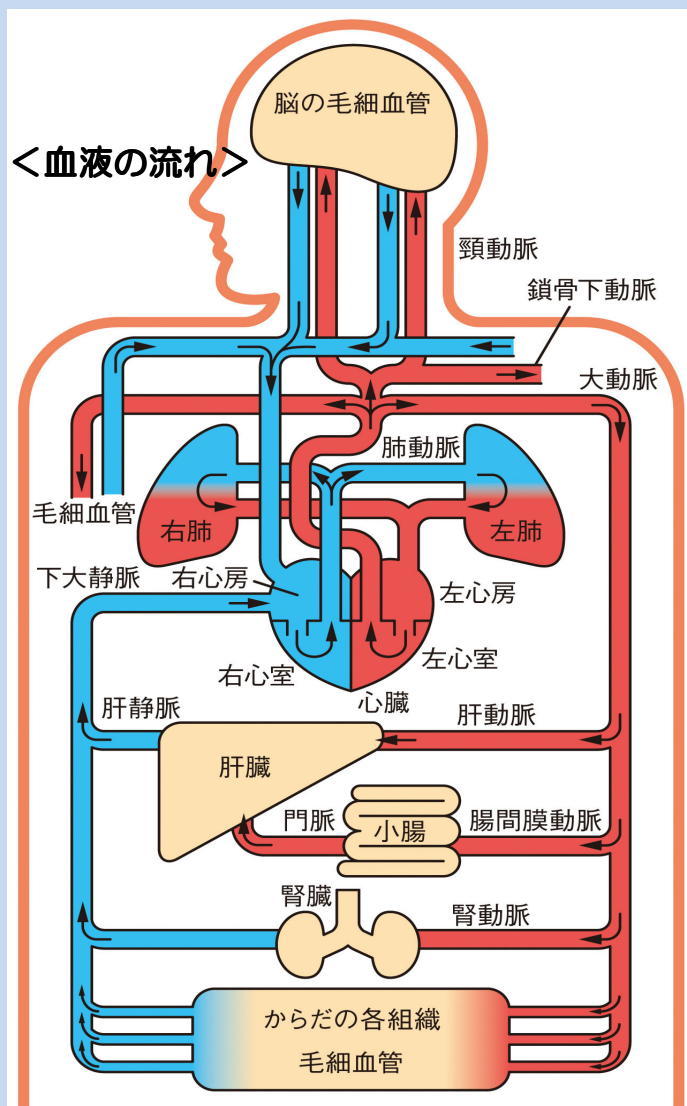
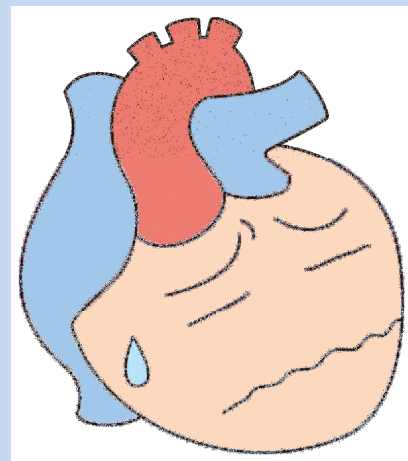
<検査>

血液検査

BNPを調べれば心不全の有無と程度が判ります。

BNPとは心臓が無理するとき血液に出るホルモンです。

作成：医事課



胸部×線撮影

心臓の拡大や肺のうっ血や水の貯まりがあれば心不全の存在がわかります。同時に左室・右室や左房・右房の拡大などの診断がある程度つきます。



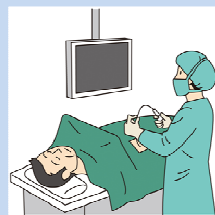
しんでんず 心電図

脈のリズムや左室肥大あるいは狭心症・心筋梗塞などが判ります。



心エコー検査

心臓の各部屋（左心室・左心房などの）サイズや機能が正確に判ります。また収縮機能不全か拡張機能不全かも判ります。また心臓の周囲に水などが貯まっているか、心膜が肥厚していないかも判ります。



心カテーテル検査

心不全の原因究明には心カテーテル検査が最終検査法です。心臓の各部屋の圧や心拍出量（心臓が毎分送れる血液の量）などが正確に判ります。

<治療法>

安静を保つとともに心臓の収縮を高めるための強心薬、尿の出をよくしてうっ血を改善させる為の利尿薬、心臓への負担を軽くする為の血管拡張薬などの薬物療法が中心に行われます。心不全の程度が軽症から中等症の場合には外来でも治療可能ですが、重症の場合は入院での治療となります。入院では集中治療室でスワン・ガンツカテーテルを肺動脈内に挿入し、心臓内の圧力及び心臓から拍出される血液量を測定しながら治療が行われます。また、薬物療法のみでは治療できない場合には、人工呼吸器や補助循環といった機器があわせて使用される場合もあります。このような心不全自体に対する治療とともに、心不全の原因となっている病気の治療もあわせて行います。

<入院費～概算～>

心不全コントロール入院（22日間入院）

1割・2割負担の場合 44,400円（上限）

3割負担の場合 270,000円 前後

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<平成28年度当院データ>

心不全での年間入院患者数 153件

平均入院日数 22.3日

※パンフレットに関するご不明な点がございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。